

# 辺野古通信

第47号 2015年7月8日



5/24 国会包囲に 15000 人！

発行: 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜)

沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

## 戦争法案を廃案へ！辺野古の埋立てを止めろ！

■国会周辺は、憲法違反の戦争法案に反対する人々の座り込みや抗議行動が連日展開され騒然としている。「夏までに成立させる」という対米公約を、国会内の数の方で実現させるという安倍政権の目論見は、予想を超える反対世論に包囲され、揺らいでいる。国会会期は9/27まで大幅延長されたが、これからの国会内外の闘いが重要だ。■安倍政権の目指す戦争国家化の最前線—辺野古の闘いは、戦争法案を葬り去る闘いと一体の闘いだ。文字通りの「島ぐるみ」の闘いに支えられた辺野古の海と陸の抵抗闘争が、基地建設に向けた作業を遅らせている。沖縄防衛局は「6月末まで」としていたボーリング調査を「9月末まで」延長を余儀なくされた。■全国の世論も、あまりに目に余る安倍政権の強引な沖縄政策に、ようやく厳しい目を向けつつある。4月から始まった辺野古基金は、一年間の目標3.5億円を3ヶ月で達成した。その7割が県外からのカンパという。■5/27から6/5までの翁長知事を中心にした沖縄の訪米団の要請行動は、全国紙ではまるで成果がなかったかのように扱われているが、本当にそうか。米国政府と米軍内部にジワジワと影響を及ぼすのではないか。「敵意」に囲まれた基地が、いつまでも

存続できるわけがない。■沖縄戦から70年目の6/23慰霊の日。翁長知事が「平和宣言」の中で敢えて辺野古の新基地建設中止を訴えると、指笛と拍手。「みるくがゆら(平和ですか?)」と問う高校生の発言も共感を呼んだ。その直後の安倍の発言は、「帰れ!」「戦争屋!」という野次と怒号に包まれた。厳粛な「慰霊の日」式典で噴出した怒りのマグマに、安倍は苛立っているように見えた。■6/25の自民党本部で開かれた若手国会議員会合での事実誤認も甚だしい暴言は、このような中で飛び出した。「沖縄の二つの新聞は潰さなければいけない」と名指しされた沖縄タイムスと琉球新報は、直ちに怒りの共同抗議声明を発した。(2頁)■仲井真前知事の埋立承認を検証中の第三者委員会の答申が7月中に出され、8月初旬にも知事が「埋め立て承認の取消あるいは撤回」に踏み切る可能性が高まっている。「島ぐるみ会議」は知事の判断後に沖縄県内全市町村で一斉行動を予定している。■「オール沖縄」を象徴する「島ぐるみ会議」が神奈川にもやってくる! 8/21神奈川集会に多くの参加を! 9.12国会包囲行動に神奈川から大結集しよう! ■辺野古・高江カンパは累計1,766,166円(6月30日現在)。引続きカンパを!

### 「島ぐるみ会議」全国キャラバンin神奈川へ!

8月21日(金) 18時開場

■内 容: 沖縄からの訴え～「島ぐるみ会議」共同代表から

■会 場: 神奈川県民センター・ホール

(横浜駅西口徒歩5分ヨドバシカメラ裏)

■資料代: 500円

■主 催: 「島ぐるみ会議」と神奈川を結ぶ会(準備会)

神奈川平和運動センター

# 自民党若手国会議員会合の「暴言」は安倍政権の沖縄差別政策の象徴だ。

自民党本部内で開催された若手国会議員の勉強会での暴言問題。安倍政権は戦争法案審議への影響を最小限に抑え込もうと火消しに躍起になっている。作家・百田尚樹のネトウヨレベルのトンデモ発言は今に始まったことではない。「普天間基地は田んぼの中にあり、周りには何もなかった。」「みんな何十年もかかって基地の周りに住みだした。」等の事実関係の誤りは琉球新報、沖縄タイムスが徹底的に暴露している。

重要なことは、この会合が自民党本部内で開催された、安倍晋三を支持する若手国会議員の会合であり、官房副長官・党総裁特別補佐など安倍首相側近が出席していることである。百田の口を借りて、安倍政権の沖縄に対する差別と偏見がむき出しになったというべきだ。実際、出席議員の発言は、「沖縄にお金を配ってあげればいい、地政学的に我が国を守るという概念が戦後70年欠落していて、予算潰れだ。」「沖縄の特殊なメディア構造を作ってしまったのは戦後保守の墮落だった。左翼勢力に完全に乗り取られている。」等々、百田と同レベルの暴言オンパレードだ。絶対に許すことはできない。

この間の沖縄の島ぐるみの抵抗が全国の世論にも影響を及ぼし始めたこと、戦争法案への反対の声が広がっていることへの安倍政権の焦りが、マスコミ叩きという形で噴き出したとも言える。この会合は冒頭の百田のマスコミ批判が公開され、その後もマイクを使用して事実上公開していることから、その挑戦的姿勢が見て

## 普天間居住 商売目当て



自民党若手国会議員会合で発言した百田尚樹氏（右）。

「もとは田んぼの中」土地接収願み  
自民改憲派 議員ら会合 百田氏が発  
「沖縄2紙つぶさない」と  
普天間の居住者や関係者、地元紙の記者らから、百田氏の発言に激しい反響が広がっている。百田氏の発言は、沖縄の歴史や現状を正確に理解していないと見られる。また、沖縄のメディア環境についても、正確な情報を提供していないと批判されている。

## ホ

取れる。沖縄の自民党には、例えば保守首長である宜野湾市議会で6/29に百田発言に絞る（自民若手議員の暴言には触れない）形で全会一致の抗議決議が挙がるなど差別暴言への批判もある一方で、島尻安伊子県連会長はコメントを避け、「二紙は公平公正さに欠ける」とマスコミ批判に同調する自民党県議もある。谷垣幹事長は謝罪したが、党最高責任者のはずの自民党総裁・安倍は、かたくなに「謝罪」を拒んだ。7/2 沖縄県議会は自民党総裁安倍晋三宛に、発言撤回と沖縄県民への謝罪を求める抗議決議を突きつけた。7/3 衆議院特別委員会で安倍は「沖縄のみなさまの気持ちを傷つけたとすれば申し訳ない」と自身の責任を認めざるをえないところに追い込まれた。

安倍に求められているのは言葉だけの「謝罪」ではない。沖縄差別政策を改めることだ。

### 百田氏発言をめぐる琉球新報・沖縄タイムス共同抗議声明

百田尚樹氏の「沖縄の2つの新聞はつぶさないといけぬ」という発言は、政権の意に沿わない報道は許さないという「言論弾圧」の発想そのものであり、民主主義の根幹である表現の自由、報道の自由を否定する暴論にほかならない。

百田氏の発言は自由だが、政権与党である自民党の国会議員が党本部で開いた会合の席上であり、むしろ出席した議員側が沖縄の地元紙への批判を展開し、百田氏の発言を引き出している。その経緯も含め、看過できるものではない。

さらに「(米軍普天間飛行場は)もともと田んぼの中にあつた。基地の周りに行けば商売になるといって人が住みだした」とも述べた。戦前の宜野湾村役場は現在の滑走路近くにあり、琉球王国以来、地域の中心地だった。沖縄の基地問題をめぐる最たる誤解が自民党内で振りまかれたことは重大だ。その訂正も求めたい。

戦後、沖縄の新聞は戦争に加担した新聞人の反省から出発した。戦争につながるような報道は二度としないという考えが、報道姿勢のベースにある。

政府に批判的な報道は、権力監視の役割を担うメディアにとって当然であり、批判的な報道ができる社会こそ健全だと考える。にもかかわらず、批判的だからつぶすべきだ—という短絡的な発想は極めて危険であり、沖縄の2つの新聞に限らず、いずれ全国のマスコミに向けられる恐れのある危険きわまりないものだと思う。沖縄タイムス・琉球新報は、今後も言論の自由、表現の自由を弾圧するような動きには断固として反対する。

琉球新報編集局長・潮平芳和  
沖縄タイムス編集局長・武富和彦

# 「碇石発見は、怒りの表れ」(ヘリ基地反対協・安次富さん発言)

キャンプシュワブ内から中世の碇石とみられる石が見つかり、沖縄防衛局の新たな「悩みの種」となっている。(写真は6/30付琉球新報)

碇石は、中世の中国船や琉球船などの木製いかりを海に沈めるために用いられた重り。見つかった石が碇石であれば、琉球王国時代の交易の状況を知る手掛かりになる。発見された場所は、防衛局が設置を目論んだ「仮説岸壁」の根元に当たり、埋め立て予定地の中心部分になる。(右の図は6/16沖縄タイムス)

2～3月にかけてのシュワブ内の遺跡調査で名護市教育委員会が碇石に似た石を発見。石は米軍管理下で保管された。市教委は米軍に引き渡しを求めている。引渡しの遅れは文化財調査による工事の遅れを危惧した防衛局と米軍の連携プレーだ。業を煮やした名護市議会は6/11に「米軍キャンプ・シュワブに存する遺跡文化財等の早急な調査と保護・保全を求める決議」を採択し引渡しを迫った。その結果、碇石は6/12に米軍から市教委に引き渡され、県教委の鑑定に委ねられた。6/30、県教委は正式に「碇石」



と認定した。名護市教委は文化財保護法に基づいて付近一帯の試掘調査(来年2/末まで11地区331箇所)を進めることになる。6/24米軍は市教委の立入りを許可した。「法治国家」を自称するならば、沖縄防衛局は、全ての作業を中止して、文化財保護法に基づく市教委の文化財調査に全面的に協力しなければならない。碇石の発見は「われわれの怒りの表れだ。ニライカナイの海は私たちの行動を支えてくれている。」(安次富浩さんのコメント。6/16琉球新報)

## 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会結成!

5/31 辺野古埋め立て用土砂搬出に反対する全国連絡協議会が奄美大島にて結成された。会議には土砂採取予定地の瀬戸内、門司、奄美大島から6団体が参加、天草、五島、徳之島からも賛同の声が寄せられているという。決議文には、土砂搬出による自然破壊と軍事基地への加担を拒否する思いが込められている。

沖縄では県議会に土砂搬入を規制する条例案が審議中で、7/10には成立見込み、11/1から施行される。亜熱帯の独特の生態系を持つ沖縄の自然を外来種から守るための条例だ。特に埋め立て予定の大浦湾は新種の発見が相次ぐ生物多様性豊かな海だ。「あらゆる手段で新基地を阻止する」としている翁長知事の「手段」の一つとなる。

### 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会決議文

ことし、日本は戦後70年の節目を迎えた。だが戦後の一貫した不戦・平和国家の追求は今、安倍自民党政権下で大きく揺らぎつつある。加えて軍事基地の大半を押し付けられた、沖縄の過重負担は変わらず、島民の圧倒的世論に反して100年耐用型の辺野古新基地建設さえ始まっている。

21世紀は何をさておいても、戦争のない世紀でなければならない。戦争こそ人間を狂気に駆り立て、尊厳を傷つけ、貧困を増長させ、未来をも混乱させる。私たちは平和希求の叫びを一層高らかにし、基地のない島を訴える沖縄の人々に寄り添い、反基地運動の一層連帯を誓う。

そうした中、辺野古新基地の埋め立てに供する土砂は、沖縄県内外、とりわけ西日本の広範な地域から調達する計画を防衛省は表明した。対象地の離島、農漁村は高度成長下で資源供給を但わされ、破壊と公害に苦しんできた地方が少なくない。昨今ようやく乱開発に歯止めがかかり、地域の主体的な振興に取り組みが始まりつつあるが、こうした矢先、新たな大量の土砂供出は、再びふるさとの荒廃を加速しかねない。

沖縄・辺野古の海はジュゴンやサンゴ礁が群生する世界的にも貴重な海であり、小豆島は瀬戸内海を代表する国立公園で、奄美・沖縄は世界自然遺産登録を目指している。こうした風光明媚(めいび)、人々の原風景の各地の自然を、国は環境アセス一つなく、土砂供出を押し付けている。これは沖縄と日本各地の自然破壊、さらに軍事基地への加担を強制する二重破壊である。

私たち土砂搬出予定地および関連団体はきょうここに相集い、辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会を結成、政府に対し辺野古新基地計画・土砂搬出計画の即時撤回を強く訴える。以上、決議する。

# 5/24国会包囲ヒューマンチェーンに15000人が大結集!



実数5万人が参加したと言われる5/17沖縄県民大会。この沖縄の闘いに応えようと準備された5/24日曜日の国会包囲ヒューマンチェーンは15000人が結集。沖縄関係の東京行動としては過去最大規模となった。辺野古新基地建設を掲げた国会包囲は、7000人が結集した1/25の包囲行動に続いて2回目だが、前回の倍を超える多数の人々が集まった。

当日は雨が心配されたが、昼前には太陽が顔をだし、絶好の日和になった。国会正門側(A地区)、首相官邸側(B地区)、議員会館側(C地区)、国会図書館側(D地区)の四箇所ステージを設置した。C地区を中心にレポートする。

C地区では衆議院第二議員会館前歩道にステージが設置された。お昼過ぎる頃から地下鉄出口から人の波が続く。歩道が人で埋まり始めた午後1時半過ぎ頃から、プレイベント。闘病中のシュワブゲート前行動のリーダー・山城博治さんから「国会包囲行動で、シュワブゲート前の唄とアピールを!」と託されたというヤスさんが登場。大きな拍手で迎えられる。(下の写真)

シュワブゲート前行動のリーダー・ヤスさんがマイクを握る。「初めの頃は、ゲート前は夜になると2~3人しかいなかった。資材を搬入する車が来ても、機動隊に簡単に排除された。これではとても止められないと思った。」「しかし、思い直した。少人数でも搬入を止めようとしている姿を見て、必ず多くの人が駆けつけてくれる。実際にゲート前行動の人はどんどん増えている。たくさんの人がゲート前に集まれば、工事も全て止まるという確信を持っている。」—辺野古のゲート前行動の現場からの力強い発言に、参加者は熱心に聞き入った。そして「座り込め ここへ」の大合唱が始まった。ヤスさんの振り上げる拳に合わせて、数え切れないほどの「辺野古新基地 NO」のプラカードが揺れる。山城博治

さん作詞の「沖縄 今こそ立ち上がろう」は、さらに大音響となって永田町の空に広がった。安倍首相、菅官房長官、中谷防衛相にはぜひとも聞かせたい、辺野古現地の怒りの歌声だ。

午後2時から集会が始まった。沖縄からの発言は、県民大会実行委員会共同代表の大城紀夫連合会長、山内末子沖縄県議、玉城ノブ子沖縄県議、ヘリ基地反対協の安次富浩共同代表の4人。どの発言も怒りのこもった、確信に満ちた力強いものだったが、ここでは辺野古の現場を代表して発言した安次富さんの訴えを紹介する。

安次富さんは、5/17県民大会の参加者が主催者発表の35000人を大きく超え、5万人に達するだろう、と指摘。「安倍政権と全面对決するために、沖縄は『オール沖縄』で結集している。粘り強く闘い、決して諦めない。イデオロギーではなく、沖縄の尊厳を築き上げる闘いだ。」と強調した。さらに「安倍政権は背広の下に軍服を隠している。こんな内閣に沖縄は騙されない。自衛隊との基地の共同使用で米軍専用施設の割合を少なく見せようとしているが、共同使用は訓練強化を意味する。」と暴露。「沖縄の未来を創るのは、永田町ではなく沖縄だ。沖縄の未来、日本の未来を、連帯しながらつくりあげよう!」と呼びかけた。

3時過ぎに2度の包囲行動の成功を確認しながら、集めたカンパ袋を持って集約場所の正門前まで歩いた。手をつなぐところはほとんど二重になり、ところどころ三重になっていた。1/25の包囲行動の3倍近くの人が集まっていたのではないかと。しかし、まだまだ足りない。沖縄の声、世論の変化に素直に耳を傾ける政権ではない。政権中枢—永田町を激震させる巨大包囲デモをさらに追求しなければならない。

9/12 第3回国会包囲に大結集を! (F)



## 9.12 国会包囲ヒューマンチェーンへ

**9月12日(土)14時~ 国会周辺へ集まろう!**  
1/25の7000人、5/24の15000人を超える大結集を! 安倍政権の暴走を止めよう! 戦争国家化の最前線、辺野古新基地建設を阻止しよう!